

Rotary



# 宮崎南週報

ロータリーは世界をつなぐ



マーク・ダニエル・マロニー  
2019-20年度RI会長

## ロータリークラブの活動を楽しもう！

宮崎南ロータリークラブ  
会長 山地久守

### 第2028回例会 2019.12.16

会長／山地久守 幹事／大迫雅浩  
副会長／小園隆司 会報／河野慎也  
例会場／宮崎観光ホテル  
ソング／それでこそロータリー  
ロータリーの目的

#### 会長挨拶

山地久守会長



本日は、年内最後の昼の例会です。来週は、最後の例会ですが、年末ということで夜間例会年末家族懇親会となっています。R I 会長のマーク、ダニエル、マロニー氏は、ロータリーの目的について、①職業上高い倫理觀を持ちロータリアン各自の職業を高潔なものにする。②一人一人が個人として職業や社会生活において奉仕活動をする。③知り合いを広めることにより奉仕の機会とする。④奉仕の理念で結ばれた職業人が世界的ネットワークを通じて国際理解、親善、平和を推進する。以上の目的と共にロータリーを拡大し更に力強いロータリーを築こうと述べ、次年度会長テーマを「ロータリーは世界をつなぐ」と発表し、その為に①ロータリーを成長させ、②組織の改革、③国連との連携を唱えると共に「家族の重要性」を説いています。来週の年末懇親会にも多くのご家族が多数出席されますようお願い致します。

今年度も6か月を経過しようとしています。この6か月を振り返ってみると、「ロータリークラブの活動を楽しもう！」という当クラブのテーマで、7月に各委員長が活動方針発表し、S A A の例会運営管理とプログラム委員長による例会プログラムで楽しい例会になっていると思います。また、親睦委員会によるゴルフ、懇親会の企画実施、ロータリー

#### 出席委員会報告

山崎栄一郎委員長

##### ●出席状況

本 日 状 況	
会員数	(43) 47名
本日欠席者数	18名
本日出席者数	29名
出席率	65.91%

前々回状況	
会員数	(44) 47名
ホームクラブ出席者数	37名
メークアップ数	0名
修正出席者数	37名
修正出席率	84.09%

ニコニコ  
BOX 1件 5,000円  
累計 39,000円

募金箱 4,744円  
累計 78,732円

情報委員長による研修、国際奉仕委員長によるタイ国オムコイ村の奨学事業の管理、職場訪問と実際に各委員長が積極的に活躍して頂いています。他に地区の委員としても活躍して頂いている会員もいらっしゃいます。

来年も計画した活動が残っていますので、楽しく活動できることを期待しています。また、戦略計画について、大迫 P G が中心となってまとめられるビジョンが正式に示されることになっています。当クラブの戦略計画について、ロータリーの目的、ロータリークラブの使命を念頭に当クラブ合ったものを考えたいと思います。

#### 幹事報告

大迫雅浩幹事



- ・南九州大崎RCのメールアドレスが変更になりました。関係のある方は事務局までお問い合わせください。
- ・2730地区RLIパートIII研修セミナー鹿児島開催のお知らせです。宮崎は先日終了した分ですが受けたい方は鹿児島でも受講可が可能です。日時は1月12日日曜日鹿屋市中央公民館にて10時開始です。
- ・喜島ガバナー名で年次総会に関する連絡が来ております。今年度は間に合いませんので次年度への申し送りとなります。今後の年次総会時には当

Rotary



ロータリー情報

●マイロータリー (My Rotary)

登録することで、日本を問わず世界各国のロータリー活動の動向や情報、地区・クラブ運営に必要なデータ等が随时入手できる便利なシステム。全てのロータリアンに対して、登録が推奨されている。

該年度の収支を含む中間報告および前年度の財務報告をする前提で12月31日までに開催するよう指示がありました。

- ・エコキャップに関して、今回受領個数4,300個、累計で184,728個です。私も次週に持ち込みますが少しの努力で協力が可能ですので皆さんもどうぞよろしくお願ひします。
- ・今月のロータリーレートは1ドル=108円です。

## 親睦委員会

### 田中靖彦委員長



- ・1月19日(日)日宮崎南RCゴルフコンペを開催します。UMKカントリークラブ 8:30集合 9:03スタートです。

## 年次総会

### 戸高勝利指名委員長



### 2020年~2021年度 宮崎南ロータリークラブ 理事及び役員候補者

役 員		理 事	
会 長	川村 雅 宣	職業奉仕	田 口 幸 登
会長エレクト	田 中 寛	社会奉仕	富 井 雄 二
副 会 長	戸 高 勝 利	国際奉仕	大 田 寛 子
幹 事	島 田 博 良	青少年奉仕	大 浦 秀 幸
直前会長	山 地 久 守	プログラム	田 中 靖 彦
会 計	鈴 木 健	親 瞳	安 川 潔
S A A			

## 会長エレクトあいさつ 川村雅宣会長エレクト



令和元年になり世の中はどんどん変わっています。

地球温暖化により作物の作れる場所が北に北に上がってきたり、台風のレベルが私たちの想像以上に大きくなったり、コンピューターを操作して学生が大金を得たりしています。

世の中は目まぐるしく変化しています。でも、私達ロータリアンは4つのテストの考えに基づきコツコツと行動を共にしていく事が大事だと考えています。南ロータリーの皆さん。これからもワンチームの精神で頑張って行きましょう。

## 本日のプログラム

### 会員卓話

#### 渋沢栄一『論語と算盤』

大迫三郎会員



一万円札が福澤諭吉から渋沢栄一に変わることになりました。ここで簡単に渋沢の略歴を述べます。

渋沢は1840年埼玉県深谷市で生まれ、一橋家の家臣、ついで幕臣となる67年徳川昭武に随行し、ヨーロッパ諸国歴訪。維新後69年明治政府に仕官。民部省、大蔵省に属した。役所を勇退し、第一国立銀行など製紙、紡績、保険、運輸、鉄道など五百社の企業設立、商工産業の発展に尽力、経済団体設立、商業学校設立など実業界の社会的向上に努めた。70歳退任後は社会公共事業育成、国際親善に力を入れた。1931年没91歳。

私は論語に詳しいわけでも、勉強しているわけでもありません。前からいろんな機会に論語らしきものは見聞しましたし後々に格言など論語から来ているものを知りました。

ガバナーを拝命した時、偶然にも週刊誌の本を紹介する記事の中に「論語と算盤」の紹介記事をみつけ大変刺戟と感動をしました。

当時ガバナーを受けるについての心の扱り処を求めていたためと、職業奉仕理論を納得し説明するのにその論拠を探していたためであります。事業で儲ける事と、人の道をわきまえる事との分別について悩んでいたためです。早速書店で取り寄せ、熟読し、職業奉仕の何たるかに私なりの納得をし以後ガバナーの私の第一テーマを職業奉仕として公式訪問はじめ地区大会やあらゆる機会に皆さんに語りかけました。

ロータリー歴40年にして職業奉仕がロータリーの根源である事、職業が家族であり地域で有り社会でありの大事な基礎であり、ロータリーでの主張である事を追究してきました。しかし私の論述や論考が未だ未だ不充分であり、ほんの一合目だと自覚しています。

その故に今日は皆さんと一緒に渋沢栄一と「論語と算盤」について学んでみたいと思います。

論語の基本は「仁」であり「恕」であり「思いやりの心」だと思います。

「巧言令色、鮮し仁」

※言葉だけ口先丈で人は動かない。尊敬しない。

「一言にして以て終身之を行ふべき者有りや」

「其れ恕か、己の欲せざる計、人に施すこと勿れ」  
※自分がしてしてもらいたくない事をひとにしてはならない。

「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」  
※仁の道を極めることばで、今朝にも仁を理解すれば夕方に死んでも良い

「知行樂」  
※之を知る者は之を行う者に如かず之を行う者は之を楽しむ者に如かず  
※事を覚えるは大事だ。しかし実行しなければ駄目だ。更に之を楽しむようでなければならない。

以降に『論語と算盤』の中の文章を抜粋します。

（渋沢が、公職を辞し商業を志した際に、  
同僚（玉乃）が引き留めた際の渋沢の述懐。）

当時のわが国は政治でも教育でも着々改善すべき必要がある。しかしあが日本は、商売が最も振るわぬ。これが振るわねば、日本の国富を増強することができぬ。これは如何にもして他の方面と同時に、商売を新興せねばならぬと考えた。その時までは商売に学問は不要である。学問を覚えればかえって害がある。「貸家札唐様で書く三代目」といって、三代目は危険であるという時代であった。そこで不肖ながら学問をもって利殖を図らねばならぬという決心で、商売人に変わったのであるけれども、しかしそこまでは、いくら友人でも分からなかったのだから、私の辞職を喧嘩だと合点し、ひどく私を誤っているとして責めた。君も遠からず長官になれる、大臣になれる。お互いに官にあって国家のために尽くすべき身だ。しかるに賤しむべき金銭に眼が眩み、官を去って商人になるとは実に呆れる。今まで君をそういう人間だとは思わなかった。と言って忠告してくれた。その時私は大いに玉乃を弁駁し説得したが、私は論語を引き合いに出したのである。趙普が論語の半ばで宰相を助け、半ばでわが身を修めると言ったことなどを引き、私は論語で一生を貫いてみせる。金銭を取り扱うが何ゆえ賤しいか。君のように金銭を卑しむようでは国家は立たぬ。官が高いとか、人爵が高いとかいうことは、そう尊いものではない。人の勤むべき尊い仕事は到る處にある。官だけが尊いものではないと、いろいろ論語などを援いて弁駁し説きつけたのである。そして私は論語を最も瑕疵のないものと思ったから、論語の教訓を標準として、一生商売をやってみようと決心した。それは明治六

年の五月のことであった。

（土魂商才）

昔、菅原道真は和魂漢才という事を言った。これは面白いことと思う。これに対して私は常に土魂商才ということを唱道するのである。和魂漢才とは、日本人に日本の特有なる大和魂というものを根底としなければならぬが、土魂商才というのも同様の意義で、人間の世の中に立つには、武士的精神の必要であることは無論であるが、しかし、武士的精神のみに偏して商才というものがなければ、経済の上から自滅を招くようになる。ゆえに土魂にして商才がなければならぬ。その土魂を養うには、書物という上からはたくさんあるけれども、やはり論語は最も土魂養成の根底となるものと思う。それならば商才はどうかというに、商才も論語において充分養えるというものである。道徳上の書物と商才とは何の関係が無いようであるけれども、その商才というのも、もともと道徳をもって根底としたものであって、道徳と離れた不道徳、欺瞞、浮華、軽佻の商才は、いわゆる小才子、小剣口であって、決して眞の商才ではない。ゆえに商才は道徳と離るべからざるものとすれば、道徳の書たる論語によって養える訳である。また人の世に処するの道は、なかなか至難のものであるけれども、論語を熟読翫味してゆけば大いに覺る所があるのである。ゆえに私は平生、孔子の教えを尊信すると同時に、論語を処世の金科玉条として、常に座右から離したことはない。

我が国でも賢人豪傑はたくさんいる。そのうちで最も戦争が上手であり、処世の道が巧みであったのは、徳川家康公である。処世の道が巧みなればこそ、多くの英雄豪傑を威服して十五代の霸業を開くを得たので、二百余年間、人々が安眠高枕することができたのは實に偉とすべきである。それゆえ処世の巧みな家康公であるから種々の訓言を遺されている。「神君遺訓」なども、われわれ処世の道を実によく説かれている。しかしてその「神君遺訓」を私が論語と照らし合わせてみたのに、實に符節を合するがごとくであって、やはり大部分は論語から出たものだということが分かった。例えば「人の一生は重荷を負って遠き道を行くがごとし」とあるのは、論語の「士はもって弘毅にならざるべからず。任重くして道遠し。仁をもって己が任となす。また重からずや。死してしかしてのち已む。また遠からずや」とある。曾子の言葉とまことによく合っている。

また「己を責めて人を責むるな」は、「己れ立たんと欲して而して人を立て、己れ達せんと欲して人を達す」という句の意を採られたのである。また「及ばざるは過ぎたるより勝れり」というのは、例の「過ぎたるは、なお及ばざるがごとし」と孔子が教えられたのと一致しておる。「堪忍は無事長久の基、怒りは敵と思え」は「己に克ちて礼に復する」の意である。「人はただ身のほどを知れ草の葉の露も重きは落つるものかな」は分に安んずることである。「不自由を常と思えば不足なし、心に望み起こらば、困窮したる時を思い出すべし」「勝つことばかりを知りて負くることを知らざれば、害その身に至る」とある。この意味の言葉は論語の各章にしばしば繰り返して説いてある。

#### (人物の観察法)

また孟子は「眸子は、その悪を掩うことあたわず。胸中正しければ、すなわち眸子、瞭かかなり。胸中正からざれば、すなわち眸子眊し」と、孟子一家の人物観察法を説かれている。すなわち孟子の人物観察法は、人の眼によってその人物の如何を鑑別するもので、心情の正しからざるものは何となく眼に曇りがあるが、心情の正しいものは、眼が瞭然として淀みががないから、これによってその人の如何なる人格であるやを判断せよというにある。この人物観察法もなかなか的確の方法で、人の眼をよく観ておきさえすれば、その人の善惡正邪はたいてい知れるものである。

論語に「子いわく、その以いるところを視、その由るところを觀、その安んずるところを察すれば、人いづくんぞ瘦さんや」、初見の時に人を相する佐藤一斎先生の観察法や、人の眸子を観てその人を知る孟子の観察法は、ともに頗る簡易なてつとりばやい方法で、これによってたいていは大過なく、人物を正当に識別し得らるるものであるが、人を真に知ろうとするには、かかる観察方法では到らぬ所があるから、ここに挙げた論語為政篇の章句のごとく、視、觀、察の三つをもって、人を識別せねばならぬものだというのが、孔夫子の遺訓である。

視も觀もともに「ミル」と読むが、視は単に外形を肉眼のみならず、心眼を開いて見るだけのこと、觀は外形よりもさらに立ち入ってその奥に進み、肉眼のみならず、心を開いて見ることである。すなわち孔夫子の論語に説かれた人物観察法は、まず第一にその人の外部に顯れた行為の善惡正邪を相し、そ

れよりその人の行為は何を動機にしているものなるやを篤と觀、さらに一步を進めて、その人の安心はいずれにあるや。